



島根県で活動する特定ケア看護師の実態

益田地域医療センター医師会病院 大賀嘉奈子

島根県西部の医療

私の住む島根県益田市は人口約47,000人、高齢化率約35%で海と山に面した自然豊かな地域です。益田地域医療センター医師会病院は2次救急病院で、急性期から慢性期、在宅まで幅広く医療、看護、介護を提供しています。

外来、検査、入院、どの場面においても、いつも「医師待ち」で患者様をお待たせすることが多く、その時間を少しでも短くできないか、手助けができないかとジレンマを感じていた時、特定行為に係る研修制度の存在を知りました。医師はどのような視点や考えで治療に当たっているのか深く知りたいと思ったのが特定ケア看護師を目指すきっかけでした。

病院・地域での研修

特定行為研修を修了後に院内実習として診療部の医師の指導のもと、病棟・外来での研修を行いました。院内を横断的に活動するには多職種との連携は欠かせないため、特定ケア看護師の活動についてプレゼンテーションを実施しました。

地域の診療所での研修では2ヵ所に伺い診療や往診の研修を行い、慢性疾患の管理や地域で生活しておられる医療依存度の高い方について現状を知ることができました。また、地域医療振興協会から診療看護師の筑井菜々子さんにお越しいただき、当院で1ヵ月間ご指導いただきました。60床の病棟管理を行う上で、患者様に一番近い存在である看護師の些細な気づきや疑問を拾い上げ、タイムリーに医療へつなげてい

くには膨大な知識とコミュニケーション能力が必要だと目の当たりにしました。

特定ケア看護師としての活動

私は外科、整形外科、耳鼻科、婦人科の混合病棟で勤務しています。医師不足もさることながら看護師不足も深刻ですが、週に1日は特定ケア看護師として活動できる日を確保している状況です。

特定ケア看護師の役割としては、患者さんの状態に変化があった場合に身体所見を取ったり検査を行い、医師に状態報告をしながら初期対応を行っています。医師が少ない分、コメディカルスタッフからの指導や協力を得ながら患者さんの対応を行っている状況です。時には他科の医師にも相談し、指導をいただいたうえで主治医と検討する場面もあります。他科の医師にも紹介状なしでアドバイスをいただけるというのは看護師ならではの役割です。状態変化に気



定期的に行っている勉強会



退院後訪問

づいてから対応するまでの時間が短縮できており、治療をタイムリーに行うことが可能となっています。

その他として一般病棟から在宅へ退院される患者さんの退院後訪問も積極的に実施しています。施設へ退院された患者さんの褥瘡処置についてスタッフに情報提供を行ったり、利尿剤を調整して退院された方の身体診察をしたりエコーで評価を行いました。病棟で勤務していると患者さんの生活を想像することしかできませんが、実際に訪ねることによって家族の苦労や施設で医療処置を行うことの難しさを理解することができました。

当院には特定ケア看護師が4人在籍しており、PICCの挿入や胃瘻交換などの共通して修了している項目について連携しながら活動しています。多彩な科のある病棟のため学習支援として定期的に勉強会を開催し、また委員会を通して現状報告や情報共有も行っています。

今後の課題

私自身の課題は患者さんの状態変化に応じた治療・看護がタイムリーに行えるようアシストを行っていきたいです。医師が少ない分、多職種とスムーズに連携し、患者さんが地域で生活していけるようチームで支援していくための橋渡しの存在になれるよう活動していきたいと考えています。

また、地域の特性として高齢化率が高いことや独居、老々介護の患者さんがたくさんおられ、病院ではなく地域で生活していくために慢性疾患のコントロールが重要になっています。

慢性疾患の管理として、再入院率を下げるための生活指導や、患者さん・ご家族が安心して地域で生活できるように、退院後訪問を実施し病院から地域に帰っても継続した看護・介護を提供できるよう支援していきたいと思っています。特定行為の実践だけではなく、臨床推論を基盤に「診る」と「見る」の両方の視点で患者様を全人的にとらえ医療・看護ができるよう活動していきます。